

⑤大沢川



川町から大楽寺町まで流れる3・5kmの河川。元八王子丘陵の谷戸から滲み出すいくつかの湧水を水源としている。途中で南大沢川を合わせて、城山川に合流する。川沿いは里山の雰囲気が残る場所もあり、上流には笹も飛び交う。

⑥元八王子村慰霊碑



小さな広場の段上に3つの碑が建つ。中央は日清・日露戦争の戦没者を祀る高さ3・3mの忠魂碑。右側は日中戦争から太平洋戦争に至る間の戦没者を祀った殉国の碑。左側はその後判明した太平洋戦争の犠牲者などを祀る殉国の碑。

⑦おついで地蔵



約1m四方のやしるの中に、身の丈80cmほどの地蔵が祀られている。「おついで地蔵」と呼ばれ、霊験あらたかなことで近郊に名をはせ、多くの信者があつた。わざわざ祈願してもご利益はないが、何かのついでに願をかけると叶うという。

⑧武蔵太郎安国鍛刀地



バス停「鍛冶屋敷」は、この地で下原刀を鍛刀（たんとう）していた武州下原鍛冶中興の名工、武蔵太郎安国に由来する。左側に八王子市教育委員会が建てた縦長の大きな石碑、右側には横川町の個人が建てた小さな石碑が建つ。

⑨八幡神社



1191（建久2）年に鎌倉の鶴岡八幡宮を建て直したとき、古いご神体を源頼朝の家臣、梶原景時が賜った。景時は自分の所領で鶴岡八幡宮に似た場所を選び、神社を造営し、ご神体を移した。その社がこの神社の起こりとされる。

⑩梶原杉



八幡神社のご神体を移したときに手植えしたという伝説の巨木。高さ30m、目通し12mあり、都の天然記念物に指定されていたが、1971（昭和46）年に急に勢いが衰え、翌年枯死した。いまは根株のみが参道に残っている。

⑪御霊谷川



市内の1級河川の中でも最も短い、全長750mの河川。御霊谷戸と呼ばれる谷戸の奥、御霊谷西橋から城山川に至る。この谷戸は中央自動車道の開通によって大きく変貌し、南側の丘陵周辺が宅地化されてきた。

⑫城山川



八王子城跡から叶谷町の浅川合流点までを流れる全長7・1kmの河川。かつて城内の水質ワースト1位という不名誉な時代もあったが、流域の下水道整備によって汚名返上した。八王子城跡の整備により源流部の散策もできるようになっている。

⑬宗閑寺



文禄年間（1592〜96）創建。氏照はじめ多くの家臣が参禅した。八王子城落城の折に焼失したが、後にト山舜悦（ぼくざんしゅんえつ）が氏照の菩提を弔うために再興、寺名も改めた。現在の本堂は明治時代の再建。

⑭宗閑寺の梵鐘



1689（元禄2）年の北条氏照百回忌法要の際に寄進された市指定文化財。鑄工は椎名伊予良寛、椎名兵庫重長と銘文にある。口径72・5cm、高さ1・5m。太平洋戦争中、元禄年間以降の梵鐘はほとんど供出されたが、この梵鐘は残された。

15 北条氏照墓



北条氏照の遺骸は小田原に埋葬された。この墓は、氏照百回忌法要の際、家臣だった中山勘解由家範の孫、中山信治によって造られたもの。中央に氏照、向かって右側に中山家範、左側に信治の墓が建っている。東京都指定旧跡。

16 八王子城跡ガイダンス施設



八王子城を初めて訪れた人にも分かりやすく解説するガイダンス施設として、2012（平成24）年に設置。展示解説スペースや休憩・レクチャースペースがある。外観が八王子の「八」をモチーフにした八角形になっているのが特徴。

ひと休み
コラム

八王子城跡

八王子城跡は元八王子町から下恩方町、西寺方町にまたがる山地にあります。山の地形を活かした、戦国の山城としての特徴をよく残している国指定史跡であり、2006（平成18）年には「日本100名城」にも選ばれました。

八王子城は戦国時代末期に北条氏照によって築かれました。氏照の父である北条氏康は、戦国時代に小田原城を本拠地として、関東に勢力を誇っていました。

幼少期に大石氏の養子となった北条氏照は、もともと滝山城を拠点にしていますが、より攻められにくく守りやす

い、険しいこの地に新しい城を築きました。

氏照は、ふだんは山の麓にある御主殿地区に屋敷を構えて生活していました。山頂には戦のための建物である要害（戦略上、重要な場所に築かれたとりで）が、城の周りには敵からの攻撃に備えた曲輪（土塁などで囲んで作られた平らな場所）が造られました。また、氏照は茶の湯やお香をたしなみ、文化的にも豊かな生活を送っていたようで、ベネチア産のレースガラスの器など、海外の珍しい品も発掘されています。

1590（天正18）年6月23日、天下統一を目指す豊臣秀吉配下の前田利家と上杉景勝率いる数万の大軍が八王子城を攻めました。このとき、対する北条氏照は豊臣軍との戦いに備え、家臣を連れて小田原城で籠城中で、城内に残っていたのは横地監物や中山勘解由などのわずかな武士と、領内から動員した農民や女性、子どもなど数千人ほど。圧倒的な勢力の秀吉軍の猛攻によって、八王子城はたった1日で陥落してしまいました。総攻撃の際、城内に残っていた婦女子は追い詰められた末に自刃して御主殿の滝に次々と身を投じ、その血で城山川の水は三日三晩赤く染まったと伝えられています。

八王子城の落城後、北条氏は豊臣氏に



▶ 御主殿の滝



▲ 曳橋と虎口

降伏。7月11日に氏照らは切腹し、北条氏は滅亡、八王子城も廃城となりました。現在、八王子城は整備や調査が進められて各所に解説板が掲げられ、気軽に往時の歴史を学ぶことができます。豊かな自然に囲まれ、ひっそりとたたずむ八王子城は戦国時代の魅力が満載の山城です。

見学は無料。管理棟（8時30分～17時）やガイダンス施設（9時～17時）にパンフレットを設置、トイレなどが利用できる（年末年始及びガイダンス施設の臨時休館日は利用不可）。管理棟から御主殿跡までボランティアによるガイドもあり（9時～15時。年末年始や悪天候などの際は活動休止）

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、今回ご紹介した施設が休館、開館時間の変更などの対応をとり、利用できない可能性があります。事前にホームページなどでご確認ください。



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

- ◆会費：2000円/年
(賛助会員は1000円/年)
- ◆問い合わせ先：090-4370-7653 (金子)

NPO法人 八王子城跡三ッ鱗会

武将姿で、いざ出陣！



▲八王子城跡まつり (2019年6月)

日本百名城に選ばれている八王子城跡には、その魅力を余すところなく伝えてくれるガイドボランティアがいます。彼ら有志と歴史好きが集まり、2014年にNPO法人八王子城跡三ッ鱗会が立ち上がりました。現在は賛助会員を含めた70名余のメンバーが、八王子城跡の歴史・文化の伝承、城跡の探究と保護、交流と甲冑事業の3事業と、ホームページでのPR活動を行っています。

そのなかでも、ほぼ毎年開催している甲冑づくり講座は、3か月以上かけて自前の甲冑を作り上げていく人気の活動です。夏休みに

は大好評の小学生のための甲冑づくり教室を開催。武者行列では自前の甲冑を身に付けた武将とともに、手作り足軽衣装や槍、火縄銃などを用意し、多くの人が戦国時代を体感できる工夫をしています。

「八王子城の魅力をもっと知ってもらうために、ガイド活動のほかに地域との交流にも努めています」と語るのは、理事長の金子信一さん。以前から郷土史に興味を持っていた金子さんは、ガイドボランティアに参加したことをきっかけに、八王子城跡に関心を寄せるようになったそうです。

金子さんによると、八王子城や歴史が好きなのはもとより、お祭り好きが多いのも会の特徴とか。各地からのイベント参加依頼に積極的に応じていて、北条氏にまつわるイベントだけでなく、いちよ祭りや各町会のお祭りにも参加し、盛り立っています。「小田原北条五代を大河ドラマに！」を合言葉にがんばっています」と抱負を語る金子さん。会では老若男女にかかわらず、随時会員を募集中とのこと。あなたも自前の甲冑で、戦国の気分浸ってみてはいかがでしょうか。

八王子自治研究センター内に

自治資料室開設

八王子自治研究センターは、2020年に開設から35年目（法人化からは5年目）を迎えました。センターでは、これまで地方自治を中心とした数多くの資料を収集してきましたが、本年4月より「自治資料室」を開室し、こうした資料を積極的に公開してまいります。なお、主な資料の内容は下記のとおりです。

所蔵資料一覧

八王子市予算説明書、決算資料、長期計画関係資料、地方交付税の算定資料、東京都補助金制度資料、総合交付金制度、2000年地方分権一括法資料、労働・市民活動資料、多摩地域自治体資料、都市計画・道路下水計画、障害者施策資料、高齢者施策資料、子ども・教育施策資料、清掃関係資料、水環境資料、再生エネルギー政策、原子力政策資料、東日本大震災資料、防災計画、入管体制資料、外国人労働資料、日経新聞経済教室（約30年分）、優生保護法関係資料、SDGs、地方銀行・金融資料、マイナンバー関係資料、税制・ふるさと納税資料、他



「八王子市職員組合会報」第1号（1947年2月発行、自治資料室所蔵）

お問い合わせ 八王子自治研究センター 八王子市元本郷町3-17-15 ハマナカビル2階 TEL (626)7714 FAX (621)6423

※ここは「はちとび」を応援してくださっている方々に自由に使っていただくフリースペースです。今回は「八王子自治研究センター」です。

貴重な石造物の保存を～貞和4年銘の石造物

平成23年（2011）11月に、『新八王子市史』編さんのために、専門調査員の本間岳人氏らが市内式分方町報恩寺観音堂境内で中世石造物群を調査した際、貞和4年（1348）の年号が刻まれた五輪塔の地輪を発見した。平成25年1月には市史編集専門部会中世部会担当の柳沢誠氏が現地を訪れ、銘文を「貞和四年戊子／八月九日 是勝」と確認した。是勝という名は鎌倉時代後期の天野文書に見える。歴史的意義を認識し、同年の1月に本間氏が再調査を行った。

その成果は平成26年発行の『新八王子市史』資料編2中世に資料紹介され、平成28年発行の『新八王子市史』通史編2中世（第2章第4節天野氏と由井郷）に詳しい。ぜひお読みいただきたい。

八王子には平安時代末に、崇徳天皇中宮の皇嘉門院領として成立し、九条家から京都の東福寺領へと伝えられた荘園の船木田荘があった。同荘成立以前の9世紀、朝廷に馬を献じた由井牧が経営され、牧の別当である日奉堂由井氏の本拠地の由井郷が現在の元八王子（由井野）にあったと考えられている。鎌倉時代には伊豆の天野氏の所領となる。「由井」という地名は古代から由緒のある名で、戦国時代には八王子城主北条氏照の支配地域を由井領といたった。

さて、石造物に刻まれた銘文の「是勝」とは、鎌倉幕府御家人の天野景茂



▲観音堂から由井野を望む

の娘で、景茂のおばであった是心（由井尼）の養女となった人物である。景茂からの相続をめぐって一族で2度相続争いが起こり、幕府の元で和解する。その結果、是勝は、由井本郷の源三郎屋敷及び屋敷内の田畑・在家・御堂寺所（是心の墓所）・炭竈二分一を相続した。是勝が相続した御堂が、現在の八王子市式分方町の報恩寺（由井山の山号で明治初年に廃寺）観音堂の地であったことが発見の石造物でほぼ確定できた。

発見の石造物は既知の文書資料と一致し、八王子の歴史を解明するための貴重な歴史資料である。所有者や管理者の御理解を得、文化財指定するなど、公的な機関が関与して保存管理ができないものであろうか。後世の人々に確実に伝えたい第一級の歴史資料である。

谷地川流域を訪ねて 2

JR八高線は、北八王子駅と小宮駅の間で小さな鉄橋を渡る。この川が谷地川である。鉄橋のすぐ東方で多摩川に注いでゆく。水源は10キロメートルほど西方の、加住丘陵の265メートルの丘としておこす。鉄路が川をまたぐ辺りでは小規模ながら峡谷をなし、周囲は新緑にもえて美しい。豪雨のあとなどには濁流のさかまく要注意河川だが、ふだんはおだやかな小流である。

この辺りから川の主流をのぞくと、まっすぐにつづく流域が見通される。両岸に連なる丘陵もまた川とともに長く延びる。大きな支流のない直線状の谷で、地形学ではこうした谷の形状から、一般の谷に多い浸食によって生まれた浸食谷に対して、構造谷と呼んでいる。南北の二つの丘は総称して加住丘陵と呼ばれるが、多摩川との間をへだてる右手の丘は、その上に残る古城址の名をとって滝山丘陵と呼ぶほうが親しみ深いようだ。一带は、都立滝山自然公園、滝山近郊緑地保全地域にも指定されており、行楽に訪れる人も多い。美しい自然景観が保全されている丘陵である。

この谷地川は、市内の川としては、由木地区の大栗川とともに浅川水系には属していないが、地理的にも歴史的にも、浅川流域と一体の地域を構成してきた。滝山城下に営まれていた古来の旧集落、横山・八日市・八幡の三宿の名は、いったん現在の元八王子地域

（現在の八王子地名の由来の地である）へと移されたあと、さらに現在の八王子市の中心地へと三遷し、そこに今なお繁華な町の名としてつついている。古い地名がそれぞれの旧地にも生きつづけ、新しい土地にも根付いてゆく、そうした歴史の推移が、このように存続し、受け継がれているのである。

あらためて谷地川の直線状の谷の姿を眺めてみよう。この谷は、甲州方面と江戸とをむすぶ交通路として、古くから利用されてきた道筋だった。谷筋のおだやかな地形といい、進む方向といい、いずれも人々の往来にちょうどよかった。一昔前までは道沿いのあちこちに、そうした旧道の残滓を見つけたことができたが、拡幅されて立派に舗装された現在の街道歩きでも、そんな風景に出会うことができるだろう。前回尋ねた丹木の御岳神社は、この道筋のちょうど中ほどあたりから振り仰ぐことができる。



▶丹木御岳神社の杜遠望（1986.3.9）

私の本はこうして生まれた

其の四十五

『八王子城主北条氏照の物語』—— 霊鐘姫の愛と共に生きた若き日々』 前川實 著

長年、八王子城と北条氏照を研究してきた郷土史家・前川實さんの集大成ともいえるべき小説が登場！ 氏照の生涯において、謎といわれる青春時代に迫る内容です。その生きざまに連れ添った、多摩の横山・小野路の宮鐘の数奇な旅も見どころ。徳川家康がどうしても手に入れなかった陣鐘の正体とは？ ドラマ仕立てで面白く、挿絵も効果的に使用され、読みやすい小説に仕上がっています。戦国期の関東のお城や武将たちを知りたい方にオススメです！

小説・北条氏照

前川 實 著
北条氏照を詳しく知りたい人はコチラ！

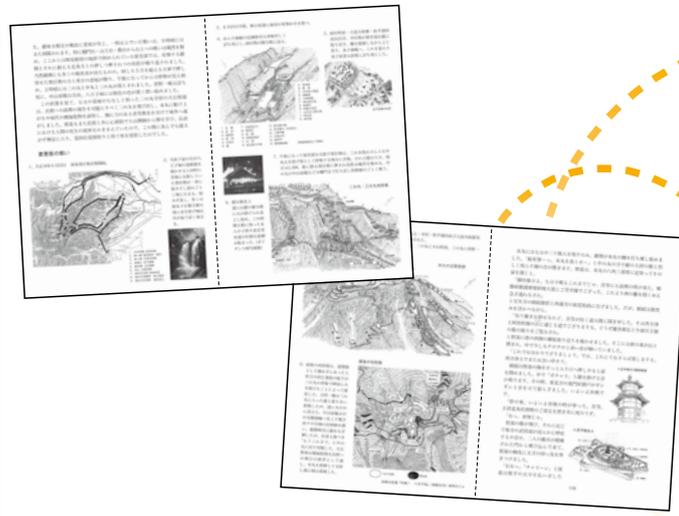
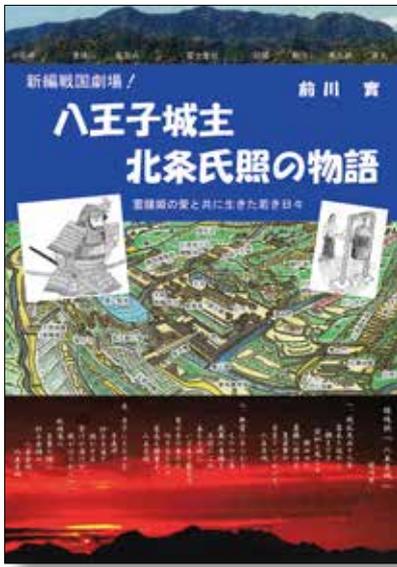


1988年に処女作『幻の八王子城』をかたくら書店から出したあと、2019年に本書が出版されるまでの31年間は、まさに北条氏照の研究と八王子城跡の探索に明け暮れる毎日を送りました。私も85歳、今回の出版で丁度10冊目の作品となり、これにより私の拙い著作人生に終止符を打とうと考えております。

訪ね歩き、伝説的に伝わっている人物像を少しずつ掘り起こしていきました。そうして浮かび上がってきたのは、質実剛健で義理人情に篤く、漢詩を吟じ、和歌をも嗜み、笛を奏で、加えて禅の達人でもあるという文化人としての側面でした。また一旦、北条軍を率いて戦場に馬を駆ければ、戦績9割以上の勝利をもたらすほどの武者でもありました。

子城』いずれも揺籃社刊)してまいりました。本著では、三浦市三崎町の歴史家からいただいた新情報を物語の中心に据えてあります。今から遠く遡る1516(永正13)年、小網代新井城城主三浦義同(道寸)が当時台頭してきた伊勢宗瑞(北条早雲)に追い詰められ、3年の籠城のち滅ぼされてしまっています。そのときに早雲側は陣鐘を打ち鳴らしますが、実はもともと三浦氏側の物であり、そこから鐘の因縁が始まります。鐘は流浪の旅をして、ついには氏照のもとへと漂着。今回の小説では、鐘を霊鐘姫に見立てて、禅の修行

に励む氏照との問答シーンも織り交ぜてあります。そうしているうちに、かつて仇敵であった北条氏と三浦氏の怨讐の念は消えてゆきます。最後は八王子城落城を経て、氏照と共に姫も消えてしまうという悲話でもあります。2017年、宮鐘のレプリカが吊るされている町田の小野神社で、北条氏と三浦氏の和解の鐘が鳴らされました。(著者記)



さて、現代の研究者たちから、北条氏照とは如何なる武将であったのかと問われる機会が多くあります。私は、日常の生活を記した確たる資料が全くない中で、氏照の故郷を

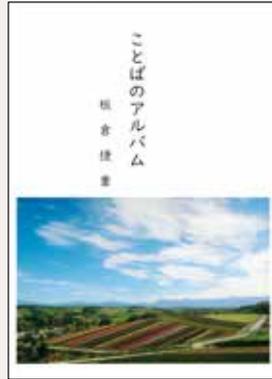
たちから、北条氏照とは如何なる武将であったのかと問われる機会が多くあります。私は、日常の生活を記した確たる資料が全くない中で、氏照の故郷を

たから、北条氏照とは如何なる武将であったのかと問われる機会が多くあります。私は、日常の生活を記した確たる資料が全くない中で、氏照の故郷を

『八王子城主北条氏照の物語』—— 霊鐘姫の愛と共に生きた若き日々』
定価1000円+税 揺籃社刊
A5判・128pp
※本書をお求めの際は、お近くの書店か当該編集部までどうぞ。

※このコーナーで紹介する自費出版本を募集しています。紹介してほしい本がありましたら、ご一報を。

以前、揺籃社が主催した文章記録グループ「つむぎの会」に参加された著者が、これまでさまざまな媒体に投稿した文章をまとめた1冊。2部構成になっていて、前半は『つむぎ』誌に掲載された文章、後半は東京都退職校長会の八王子支部会報誌に投稿してきた小文を取録しています。日本各地へ旅した話や、身近に咲いた花の話など、話題はいろいろあるのですが、特に生まれ故郷、山梨県の描写は瑞々しい筆致で描かれています。子ども時代の遊び、両親の思い出、学び舎の出来事など、「故郷は私の感性の育ての親」と著者が感じた所以が伝わってきます。



ことばのアルバム

板倉捷重・著
★私家版
★A5判・64ページ
※本書は私家版です。詳細は当誌編集部まで。著者をご紹介します。



山からのたより — 養沢で林業とともに —

池谷キワ子・著
★私家版
★A5判・144ページ
※本書は私家版です。詳細は当誌編集部まで。著者をご紹介します。

東京都あきる野市養沢で代々林業を営んできた家に生まれ、父からその生業を引き継いだ著者が、山のこと、林業のことについて書き溜めてきた文章を厳選して掲載した1冊。森林を残していくために、古くから林業は大切な役割を担ってきた。とはいえ、時代は移り変わり、昔ながらの営みを変わず維持していくことが困難に。本書は、ボランティアグループの皆さんとともに林業に携わってきた著者が感じたこと、見聞きしたことを並べたエッセイの形をとっています。随所に未来の林業、里山はこうあってほしいという願いが込められています。

わがまち八王子探訪シリーズ「恩方」(仮)

次号
予告

次号で取り上げるのは懐かしい里山風景が広がる市内西部の「恩方」地域。夕やけの情景を描写した童謡「夕焼小焼」の舞台であり、西川古柳座やセエノカミ、獅子舞など数多くの伝統文化がいまに残るのも特徴です。陣馬街道を辿って、陣馬山までの見どころをご紹介します。情報募集中!

第46号(涼風号)は
9月1日発行予定



広告募集中!

「はちとび45号」は7,000部を発行、右記の場所に配布いたします。八王子市民にアピールしたい商品やサービスの広告にピッタリ。是非、協賛ください。

提携店募集中!

お客さんとのコミュニケーションツールにしたり、待ち時間の合間に雑誌感覚で読んでもらったりと、利用方法はさまざま。「はちとび」を新サービスとしてご活用ください。

お問い合わせはこちら

揺籃社(清水工房内)
はちとび編集部

TEL (620) 2615
FAX (620) 2616
E-mail info@simizukobo.com

「はちとび」の置いてあるところ

公共施設

八王子観光コンベンション協会
八王子商工会議所
八王子市郷土資料館
八王子市中央図書館
八王子市川口図書館
八王子市南大沢図書館
八王子市生涯学習センター図書館
八王子市絹の道資料館
八王子市役所産業振興部
八王子市役所スポーツ振興課
道の駅「八王子滝山」
サイエンスドーム八王子
八王子クリエイトホール
八王子市学園都市センター
八王子市民活動支援センター
八王子市子ども家庭支援センター
八王子市芸術文化会館いちょうホール
八王子市教育センター
八王子市南大沢事務所
八王子市南大沢文化会館
八王子セミナーハウス
長池公園自然館
高尾山599ミュージアム
夕やけ小やけふれあいの里
市内各市民センター

お店・企業・学校

アート八王子
アクサ生命
御赤坂商店
御菓子司 旭苑
吾妻寿し
アメニティーライフ八王子
街荒物加島屋
一刻芸術会館
小侯ダンススタジオ
café de la poste
cafe rin
金子商店
ギャラリー・スペースことのは
京晴楼
くまざわ書店
くまざわ書店西八王子店
㈱クラブS保険サービス
グループホームびおら
敬愛保育園
啓文堂高尾店
工学院大学
小谷野紙店
街崎玉屋本店
和食 坂福
等
坂本クリニック・坂本医院

J A八王子ふれあい市場
シミズパーク24
東京都立大学
スマイルこどもクリニック
㈱スリーボンド
せいがの森保育園
セブンイレブン八王子北口店
創価大学
高尾の森わくわくビレッジ
拓殖大学
そば・うどん 玉川亭
たましん散田店
多摩美術大学
中央大学
東京家政学院大学
東京工科大学
東京工業高等専門学校
東京純心大学
東京造形大学
東京薬科大学
とみりえ
中野屋商店
街中村自動車
㈱日住
ハーモニーネット
はちねこ!カフェ
八王子エルシィ

八王子学園八王子高等学校
八王子自動車学校
八王子市役所売店「はっち」
八王子消化器病院
㈱富士屋
ふもとや
Coffee Bricks
㈱フロリストシマダ
ベネック
法政大学
まつおか書房
松姫本店
街峰尾豆腐店
みやま大樹の苑
街山六
有隣堂CELEO八王子店 等

その他団体など

サイバーシルクロード八王子
八王子法人会
八王子市医師会
八王子市職員等事業本部
八王子自治研究センター
八王子センター元氣
八王子いちょう祭り祭典委員会
墨のアトリエ墨童舎
はちとびサポーターの会 等